

# 令和8年度 第1回子育て委員会だより

北海道PTA連合会

令和8年6月27日(土)に第1回子育て委員会が開催されました。その内容をお知らせします。

子育て委員会では、令和8年度、次のような内容で研究を進めていきます。

## 研究テーマ

「豊かな心をもった子どもを育てる保護者のあり方はどういうものか」  
～誇りをもって子育てし、保護者自身も喜びを感じながら輝くこと～

## 研究テーマ設定の理由

本委員会は前身の母親委員会(平成22年度)の発足時より全道統一スローガンとして、「今 心輝いて 親として 人として」を掲げてきた。ここでいう「心輝く親(人)」とは、生き生きと輝いて充実した生活を送ることを子育てに反映していくとの思いがこめられている。豊かな心をもった子どもを育てるには、まず保護者自身が生き生きと日々生活していることを子どもたちに見せていこうという宣言である。

このスローガンを実現するために、保護者自身が学び続けていくことが大切である。保護者は子どもにとって一番身近で深く関わる存在であり、子どもの行動や意識の形成に最も大きな影響力を及ぼすものであり、その責任は大きく人生の先輩として重要な役割を担っている。その保護者が輝いている姿を見せることは重要であり、PTA活動がその機会となるよう実践を交流し蓄積して共有できるような委員会にしていく必要がある。

また、「保護者は人生最初の教師であり、教育の原点は家庭にあり」と言われ、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりの心、善悪の判断など、「生きる力」の基礎的な資質や能力は家庭教育の中で培われることから、家庭教育のあり方についても研究をすすめていく必要がある。これらのことを追究していくことが保護者や子どもの笑顔と成長につながると確信することからこの研究テーマを設定した。

## 研究の視点

この委員会は構成が地区P連の子育て担当や活動をすすめる中心の人であることから、保護者が輝く活動や家庭教育の実践を交流し、それを集積したものを共有し学び合うという帰納法的な手法に基づいて委員会をすすめていく。その際、次のことを視点として議論を展開していく。

- PTA活動をもとに保護者が輝く実践
- 「生きる力」を育てる家庭教育の実践

また議論の手助けとして、次のことを話題に取り上げていく。

\*保護者が学んでみたい、輝きたいと思えること

\*家庭・地域・学校が連携した家庭教育のあり方。

## 研究の内容

### ○これまでの成果と課題（☆は成果、★は課題）

☆子どもをとりまくさまざまな課題（発達障害・不登校・放課後の居場所と支援など）について各地区の状況を交流し、問題点などを共有できた。

☆コミュニケーション能力やあいさつの現状について交流し、それをもとに各単P向けにアンケートを実施して、家庭教育やPTA活動でどう生かしていくかという話し合いができた。そこから令和9年度札幌大会に推薦提言校を検討する足がかりができた。

☆研究大会や子育て研修会のあり方について見直し、大人も子どもも楽しめるようなものにしていく工夫を共有できた。

☆地域と学校、保護者が連携を取ることの意義について確認できた。

★子どもの数が減りPTA会員も少なくなっている中で、研究大会や子育て研修会を開催することの難しさ。

★PTAや学校が取り組んでいることを保護者に知らせる手段。

★子どもと大人が楽しめるようなPTA主催の催しの模索。

★令和9年度札幌大会の推薦提言について見通しを持った取組

★今年度実施したアンケート結果の活用と取組。

### ○今年度の方向性と取組

研究の視点に基づいて以下の項目について研究を進めるとともに、令和9年度全道大会への委員会推薦提言についても検討していく。

- 1 令和9年度全道大会での委員会推薦提言についての討議
- 2 PTA活動への困り感の解消についての討議
- 3 地区研究大会や子育て研の交流と共有
- 4 保護者が輝くために学ぶことの重要性とその実際
- 5 PTAの取組を会員に伝える方法や効果的な伝え方

## 研究推進日程

日時	会議	内容
6月6日(土)	正副委員長予定者会	・令和8年度活動計画(案)の検討・確定
6月27日(土)	第1回子育て委員会	・令和8年度活動計画の確認 ・研究内容の進め方の協議 ・令和9年度推薦提言についての協議
10月3日(土)	第2回子育て委員会	・研究内容についての交流と協議 (日常活動・地区研究大会・ 地区子育て研・学びたいこと) ・令和9年度推薦提言の決定
12月5日(土)	第3回子育て委員会	・今年度の活動の成果と課題の確認 ・次年度の方向性の確認

◎ 次の方々が道P連子育て委員会の研究を推進しています。 **31名** (敬称略)

- 委員長 ②鎌本 かおり (副会長：旭川市)
- 副委員長 ②伊藤 弘喜 (副会長：稚内市) ⑤川本 学 (副会長：釧路市)  
④幕田 優祐 (副会長：日高地区)  
○富士原 孝浩 (副会長：道中校長会～千歳市立青葉中学校長)
- 教師代表 ①脇本 麻友美 (小樽市望洋台小学校長)
- 委員 ①宮 利徳(石狩管内) ①笠原 寿仁 (小樽市)  
①木村 恵(後志) ②山本 茜(上川北部)  
②菅 友香(旭川市) ②星 肇(上川南部)  
②本田 成美(稚内市) ②若松恵美子(宗谷管内)  
②中尾 淳(留萌管内) ③田中 真未(函館市)  
③白石 秀之(渡島) ③村上 理江(檜山)  
④内山 貴雅(南空知) ④谷口 正人(北空知)  
④小池 麗恵(胆振東部) ④吉田 真緒(胆振西部)  
④日開 俊輔(日高地区) ⑤八木砂矢香(オホ東部地区)  
⑤杉山 友洋(オホ中部地区) ⑤渡辺 真人(オホ西部地区)  
⑤細野 雄一(帯広市) ⑤瀬川恵理子(十勝管内)  
⑤前田 由紀(釧路市) ⑤佐藤 陽平(釧路管内)  
⑤西 美穂(根室地方)

\*①②③④⑤は、北海道PTA連合会のブロックを表しています。

第1回の委員会では、以下のように委員会がすすめられました。

☆自己紹介

☆オリエンテーション

鎌本委員長から北海道PTA連合会の構成や役割について説明がありました。

☆活動計画の確定

上記の活動計画が教師代表委員の脇本校長先生から提案があり、承認されました。



☆各地区の活動や実践の交流

- \* 研修会に参加しやすくする工夫がある。
- \* フェスを実施して、親子で学ぶことを中心に行った。
- \* 研修会の参加者を増やすための広報活動をどうしたらよいか。
- \* P T A活動をどのように活性化していくかが課題となっている。
- \* 講師を招いて食に関する研修を行った。
- \* 町と一体となって、ノーメディアデーを設定した。
- \* 研修会でいくつかのテーマを決めて行ったら好評だった。
- \* 母親委員会が中心となって研修会の企画運営をしている。
- \* 市教委と共同で子育てに関する研修会を行っている。
- \* 連Pの広報部が広報紙を発行している。
- \* 子どもが参加できることや体験できることがあると、参加のハードルは下がると思う。
- \* 他の市町村P連（他地域）との交流がなかなか難しい。
- \* パンフレットは目にとまるようなものを工夫して作っている。
- \* 参加してくれる人が少なくなってきた中で、来てくれた人がよかったと思ってもらえる内容にしていきたい。
- \* 研修会の名前をフェスに変えることによって、動員をかけなくてもある程度参加者がみこめるようになった。
- \* フェスのようなものやってみたいが仕組みづくりがたいへんかなと思ってしまう。
- \* 保護者と教職員の温度差を感じる。お互いの連携が必要。
- \* 熱量の高い人がいるとある程度活動は継続していきける。ただ、同じような熱量を持った人を後任として見つけることや、それを役員以外に広げていくことは難しい。
- \* 兄弟姉妹がいる場合、上の子の時と下の子の時でP T A活動への温度差を感じることもある。
- \* 研修会が軌道に乗ると、市教委がのってくることもある。



次の委員会（第2回）は、10月3日（土）開催予定です。

北海道P T A連合会事務局

〒060—0003 札幌市中央区北1条西3丁目 STV 時計台通ビル6階

TEL (011) 251-6937 FAX (011) 210-0929

Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp